

ささやま図書館友の会



会報 第45号 2020年10月発行

発行：ささやま図書館友の会

ジャニス・イアンを
覚えていますか？

細見和之

アルバム」の主題歌となって、多くのひとの耳に馴染んでいました。いまでも

二〇二〇年七月二十五日に「ジャニス・イアンを覚えていますか？」というタイトルで、丹波篠山市立図書館で講演しました。私は一九六二年に丹波篠山市の上立町に生まれ、鳳鳴高校を卒業し、大学に入学してからは京阪神間で暮らしていました十七年前にこちらに戻り、しばらくして図書館友の会に声をかけていただきました。最初は萩原朔太郎、宮澤賢治、中原中也など、日本の近代

澤賢治、中原中也など、日本の近代詩人をテーマにお話ししましたが、私自身が音楽活動をしていることもあって、このところはボブ・ディラン、中島みゆき、ジョン・レノンと、自分の好きなアーティストを取り上げてきました。今回はジャニス・イアンです。

ジャンヌ・イアンという名前を聞いてすぐにピンと来る方がどれくらいいらっしゃるでしょうか？ 私が高校生のころ、彼女の曲が日本で太ヒットしていました。「恋は盲目」「ウィル・ユー・ダンス」がその代表です。とくに日本では「ウィル・ユー・ダンス」はテレビ・ドラマ「岸辺の

コマーシャルなどに使われています。ジャニス・イアンは一九五一年の生まれで、前回お話しした中島みゆきさんと同世代です。私はジャニス・イアンのなかに中島みゆきさんと共通しているものを感じていて、その点でもたいへん興味深いアーティストです。きわめて個人的な恋歌を歌うとともに鋭い社会批評をこめた楽曲を社会に対して果敢に提示する、それが二人に共通の姿です。

ジャニス・イアンの十四歳のときのデビュー曲「ソサエティーズ・チャイルド(社会の子ども)」からして、白人の少女と黒人の少年の悲恋を歌ったものでした。その後、彼女は幾度もの挫折と試練を乗り越えて、いまにいたるまで音楽活動が続けています。日本で「ウィル・ユー・ダンス」が大ヒットしていたとき、彼女は合衆国ではシンガーソングライターとしてじつは不振に陥っていました。レコードが思うように売れなかったうえに、マネージャーが税金をきちんと払っていなかったことが発覚して、私産を差し押さえられる状態でした。それで十年近くの「沈黙」

に入りました。

その後彼女は自分が性的マイノリティであることを打ち明けるとともに、音楽界に見事に復帰します。再出発のアルバム・タイトルは文字どおり『ブレイキング・サイレンス（沈黙を破る）』でした。今回の講演では、とくにそのアルバムから何曲か聴いていただきました。聴きようによつてはとてもエロティックな「ライド・ミー・ライク・ア・ウェイブ（波のように私に乗って）」、ホロコーストを主題とした「タトゥー」、感慨深い「スルー・ザ・イヤーズ（何年もの年月をつうじて）」などです。それから彼女は、ゆったりとしたペースでアルバムを発表してゆきながら、比較的小さな会場でのコンサートを世界じゅうで精力的に続けてゆきま

最後は私自身のギター弾き語りで三曲のオリジナルを歌わせていた。だきました。職場の問題を歌った「京大からタテ看が消える日」、反戦の思いをこめた「廃墟」、そして冬山で遭難した友人のことを背景とした「夢の中で約束の時間に遅れないように」。

またみなさんとお会いできる日を楽しみにしています。



2020年度総会のご報告

4月16日に総会開催予定をしていましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、書面表決にて総会を行いました。

総会資料として、2019年度活動報告・決算報告・2020年度活動計画案・予算案、そして総会案に賛否を問う返信用の書面表決はがきを会員へ送付いたしました。

会員48名中27名から議案書に賛成の回答があり、総会案は可決されましたので報告いたします。

【細見和之さんの講演を聴いて】

七月二十五日、新型コロナウイルスの流行のため延期した講演会を開きました。コロナ対策のため予約制を取り会場の換気、椅子、机の消毒をしっかりと、二十二名に参加いただきました。

十五歳で「社会の子」でデビューしたが賛否両論につつまれて、コンサートができないなど、社会の渦に包まれたジャンヌ・イアン。

何故か日本で、一九七六年に「恋は盲目」で大ヒット、その後の彼女のいきざまについて、お話を伺うことができました。

最後に細見先生のオリジナル曲を演奏していただき、素敵な時間を過ごさせていただきました。

米国での人種差別の根深い事件が度々発生している時期に、適切な話題ではないでしょうか。
(吉田)

今こそ 図書館

コロナ禍における

図書館の対応



中西 文枝

皆さん、おかわりないですか？

今年の総会は、コロナの感染予防のため書面決議で行いましたが、やはり、皆さんの顔を見ながら開きたいとつくづく思いました。

さて、コロナ禍での図書館の対応と、図書館の役割を考えていきたいと思えます。

兵庫県の図書館は緊急事態宣言を受け、四月八日に県立図書館をはじめ阪神地区の図書館が臨時休館を開始しました。

篠山の図書館は貸出と返却のみ対応し開館を続けましたが、四月十七

日から臨時休館を実施しました。五月十九日からは予約本の貸し出しに限り貸出を再開しましたが、その間の貸出業務はまったく中止となりました。五月二十五日に緊急事態宣言が解除され、それを受け丹波篠山市民に限り、中央図書館で貸出・返却業務のみ再開、市民センター図書コーナーは五月三十一日まで休館を継続し、その後六月に入り徐々に制限つきで再開をしています。現在は感染防止の対策を取りながら、ほぼ通常の運営になっています。

臨時休業の期間は、まったく本を借りられない状況が続く、何とか貸出す工夫が必要かと思いました。ステイホームということで、本来なら本を読む絶好のチャンスでもあったはずですが、例えば、郵送で貸し出すとか、ネットで申し込んで、本だけを引き取りに行くとか。また、この

講演会

身近な文様「家紋」の歴史と奥の深さを知る

講師 田中豊茂 氏
日本家紋研究会理事

家紋って何？ 家紋の起こりから世の中に広まった歴史、家紋に込められた意味や思い、旧氷上郡・多紀郡に息づく中世名字と家紋の由来を紹介します。



10月31日(土) 13時30分～

- ▶ 会場 丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール
- ▶ 参加費 500円(資料代・運営協力費等)

定員 40名

間、子ども達にテーマごとの本を用意して郵送で貸出すとか、ホームペーに動画などを載せるとかも考えられるかもしれません。今後の感染状況の悪化も考えながら、図書館は市民の知るための扉を開鎖せず、機能させる準備をしてほしいと思えます。ネット予約なども具体的に考える時期がきているかと考えます。今こそ図書館の発信力を高め、「いつでも、どこでも、誰にでも」貸出しができる図書館をめざして欲しいものです。

文庫「もりのなか」こどものとしょかん

二十年目を迎えて

今西茂子

文庫「もりのなか」こどものとしょかんは、二〇〇一年五月に開館しました。開館前から、そしてその後も、多くの人たちの援助をいただき、出会いと思い出を文庫の中に詰め込んで歩いてきました。

二〇一二年からは、昔ばなし大学の仲間である藤川洋子さんと二人三脚で運営しています。

「ねえ、今西さん、面白い本はどれ」といって、私の体にびったり身を寄せてくる女の子。彼女の本を読む楽しみに応えるべく、本を選ぶために書架の前に立ちます。それは私にとっては真剣勝負の時間。

「今西さん、どうしてこんな面白い本を、今まで教えてくれなかったの」と、『大力ワーニャの冒険』の本を返しながらかつと囁く小二の男の子。昔話が大好きな彼に、昔話を元にして書かれたこの本をもっと早くに手渡すべきだったのか、いやそれとも、今がちょうどその時だったのか・・・と、悩み、「ごめんね」と言いながら、また彼のために更なる面白い本を探し書架の前を行った

り来たり

子ども

に『最適な本を最適

の時に届ける』この思いをいつも胸に、子どもたちに本を手渡してきました。

今年の五月、四年前に大阪へ引越して行った一六歳の男の子から突然封書が届きました。中には「本好きくろうの速達便 一通目」と題したフリーペーパーが入っていました。添えられた手紙には、「僕が子どもの頃に読んで楽しかった本を、多くの人に紹介したくて、コロナ休みを利用して始めました」と、書いてありました。私は言葉にできない感動で胸一杯になりました。今そのフリーペーパーは、全国三十か所の書店等で無料配布されています。

この二十年間、私は子どもたちから多くの事を学びました。また子どもたちにとって、文庫で過ごした時間、出会った本が心の拠り所となり、彼らの人生に刺激を与え、力となって支え続けているとしたらこれほど嬉しいことはありません。

人々は、戦争、貧困、差別・・・と、過酷な時を



生きながらも、光を見つけて生き抜いてきた歴史を物語にして残してきました。今、不安に押し潰されそうな時代に生きる私たちにとって、物語は必ず希望と未来を生きる力を与えてくれると信じて、これからも子どもたちに届けていきたいと思っています。

令和二年度 第一回丹波篠山市図書館協議会報告

八月四日、第一回図書館協議会が、稲山教育部長、図書館長、職員二名出席のもと開催されました。

〈主な協議事項〉

一、配本所の周知と利用促進について

【委員】東部地区は、出張図書館のPRにより、配本所の利用者が増えた。委員が配本所今田、西紀、西紀分室を見学した際、配本所のことを知らない職員も見受けられ、業務内容の確認が必要と進言した。

【館長】配本所マニュアルの確認を徹底すると共に、図書館と支所職員との連携を図り、配本所の周知と市民の有効利用をPRする。

二、新型コロナウイルス感染予防

対策について

【委員】コロナ禍による図書館の臨

時休館日でも本が借りられるよう、在架本をインターネットで予約出来るようにできないか。兵庫県下では、大部分の図書館が進めている。よりよいサービスするためにも是非、取り組みをお願いしたい。

【館長】図書館のサービスについて、できる限り対応する。

尚、本の消毒は、ブックシャワー（図書除菌機）を購入し、中央図書館と市民センター図書コーナーに各一台配置する予定とのこと。

三、図書館ビジョンについて

【委員】平成二十四年に策定された図書館ビジョンについて、見直しについてどのように考えているのか。

【館長】事業内容の検証をすると共に、アンケートなどをして、他の意見も聞いて進めたい。

四、市民センター図書コーナーの運営について

【教育部長、館長】ブックサポートが減少している現状に鑑み、令和三年度以降の運営体制について、専任司書を配置する方向で関係部署と協議をしている。本件については、市長に報告している。

（報告 溝畑あけみ）

こどもの 本棚



『二ひねのいづみ』

イーラ 作 松岡享子 訳

(こぐま社)

さむい冬のあいだに男の子と女の子のくまが穴のなかで生まれました。春になり、おかあさんぐまは子どもたちに留守番をたのんではちみつを取りでかけていきました。

「ここであっておいで」というおかあさんのいつつけをわすれて二匹は野原へ遊びにいきます。初めて見る世界に好奇心がいっぱいで夢中で遊んでいるうちに迷子になってしまいました。

モノクロ写真絵本です。二匹のくまや他の動物たちがストーリーにあわせて表情豊かに撮られているのが驚きです。動物写真家イーラが絵本にしたのは一九五四年です。

(EY) (福山)

『木のうた』

イエラ・マリ 作 (ほるぷ出版)

ページを開くと積もった雪の上に

太い幹の一本の樹が立っています。枝には巣があるようです。雪がとけると、地面の下には冬眠する動物や植物の微かな芽生えが描かれています。

一本の樹を中心に四季の移ろいと共に動物や植物の成長の様子を描いています。文字のない絵本ですが、静かにページをめくっていくと、子どもたちの気づきのつぶやきが聞こえてくる絵本です。

(Eマ) (福山)

『テレビを発明した少年』

キャスリーン・クルル文

グレッグ・カウチ 絵

渋谷弘子訳 (さ・え・ら書房)

百年前、アメリカ西部の暮らしは貧しく、電気は通っておらず、もちろんテレビなどありませんでした。

ユタ州の農場で、この物語の主人公ファイロウは生まれました。6歳の時に手回し式の電話や蓄音機に心を奪われ、自分も発明家になりたいという夢を持ちます。電気や機械が大好きなファイロウは、科学雑誌で勉強し、テレビを発明したいと考えます。

ある晴れた日、ジャガイモ畑を耕

していたファイロウは、ひらめきました。広い畑に掘り返された無数の平行線を使えば、画像を送ることができる。まだ十四歳の時でした。その後も研究を重ね、ついに映像を映すことに成功したのです。

この絵本に出会うまで、テレビを発明した人が誰だか知りませんでした。貧しい農家の長男として生まれ、お金も学歴も無く、苦勞しながらテレビを発明した少年と、それを支える人達の姿が、いきいきと描かれています。残念なことに、生きている間には功績を認められることはありませんでしたが、彼はテレビを通して世界が一つになることを信じていました。

好きなことをあきらめず続けていくことに、勇気を与えてくれる絵本です。

(EJ) (河合)

『ベルリン1919 (上・下)』

赤い水兵(上)(下)

クラウス・コルドン 作 酒寄進一 訳

(岩波少年文庫)

ベルリン三部作の第一部で、一九一八年冬、ドイツ帝国下のベルリン。主人公は労働者一家の息子、十三歳

のヘレ。ヘレはいつもお腹を空かせていた。水兵たちのストライキをきっかけに、平和と自由を求めるデモが始まる。ヘレの父は、戦地から片腕を無くして帰還し、独立運動に参加する。戦争が終わり、皇帝はいなくなつたが、急進的な革命を求めた水兵や労働者たちは弾圧の対象となり、市街戦へと突入。ヘレが知り合つた水兵ハイナーやアルノも戦闘に巻き込まれる。

各政党の主張と登場人物の思想が巻頭に整理されており、巻末には主な年表があつてわかりやすい。

教師のフレヒジヒ先生のことば「きみたちならきっと正しい道をみつける」と、ヘレの父のことは「無駄死にはさせない。夢の実現をおれたちが見つけられなくても、未来のために戦つ」が心に響く。

・第二部

『ベルリン1933』壁を背にして

・第三部

『ベルリン1945』はじめての春

(K-943J) (小山)

おとなの 本棚



『心の傷を癒すということ』

安 克昌 著（作品社）

同名のNHKのドラマをみて感動し、原作となったこの本を探し求めて読みました。ドラマは著者の生涯を丁寧を描いたものでしたが、本は、阪神淡路大震災で自らも被災し、すべて手探りから始まった精神医療活動、震災直後とその後のケア、避難所や仮設住宅をめぐる現実、救援システムやボランティアの役割など、心のケアに奔走し続けた精神科医による魂の記録、そのものでした。著者が大震災のさなかに模索し、戸惑いながらつかみとっていった「心の傷を癒すということ」へのまなざしは、悲しみや苦しみの渦中にある人、その周囲の人に寄り添ってくれるものだと思います。

著者の「苦しみを癒すことよりも、それを理解することよりも前に、苦しみがそこにある、ということ」に、

われわれは気づかなくてはならない。だが、この問いには声がない。それは発する場をもたない。それは隣人としてその人の傍らに佇んだとき、はじめて感じられるものなのだ』という言葉に頷きました。

誰しも、心に傷を持って生きていくものです。この本があなたの心の傷を癒してくれる一冊になると思います。

493.7ア（星宗）

『お父さんとオジさん』

伊集院静 著（講談社）

この作品は在日韓国人である作家の父と母の戦前の物語から始まって、父（お父さん）が母の弟（オジさん）を助け出す物語である。戦後すぐ朝鮮半島への帰還運動が始まり、多くの人たちが海峡を渡って帰っていった。母親の両親は今まで築いた地位を奪われ、息子（即ち母の弟）を連れて祖国に帰ることを決意する。弟は日本の高校に進学し、まっすぐな性格で日本人として生きてきた。

そんな弟が祖国で何もかもうまくいかなくて、そんな時に朝鮮戦争の渦に巻き込まれる。疲弊した李承晩の「南」は金日成の「北」に攻め込ま

れてあつという間にソウルを奪われ、釜山のみを残し北朝鮮に侵略されてしまう。北の軍隊は現地の若者を徴用しながら南下していった。弟はいつの間にか北の兵隊になっていた。強制されて同胞を銃で撃ち、怖くなくて父母の元に逃げ帰って来た弟には居場所がなかった。村の若者たちを北に密告したという噂が村中に流れていたのだ。父母は鶏小屋の下に穴蔵を掘って、そこに弟をかくまう。

マッカーサーのアメリカ軍が仁川に上陸し、形勢は逆転する。三十八度線を越えて進撃するが、周恩来の中国が参戦する。壮絶な戦いの中、今尚続く休戦状態に入る。

そんな中、母の家族の消息が分かり、弟の救出を願う便りが半島から日本に届く。それからの父の活躍は目覚ましい。海運業で成功していた父は、船を漁船に作り替え、救出のため銃を手に入れ、用意周到に銃の訓練をし、緻密な計画を立て四人で海峡を渡る。父は海岸で一人船から下り、ひと月後に迎えに来て欲しいと言いつ残して、崖を登っていく。たどり着いた祖国は戦場となり荒れ果てていた。鶏小屋の下に匿われていた弟はすっかり衰弱していたが義兄を見て、また日本で過ごせることを

夢見て体力回復に励む。弟を連れての逃避行は困難を極める。様々な幸運に恵まれ、弟を韓国軍の將軍に託することが出来る。弟も病身の父母を残して自分一人日本に行くことは出来ないと思っていた。

作家が父から半島での逃避行について直接聞くことはなかった。あの時、船で同行した番頭さんにこの話を聞くのは、ずっと大人になってからのことだった。

父は三人の姉たちの後に生まれた作家を殊の外可愛がり、将来を託していたが、結局父親の事業には目も向けず、取っ組み合いのけんかをして、学費も打ち切られ、一人で生きていく決意をする。この作家には脈々と父の血が受け継がれている。

この小説を読みながら、戦後、日本で生きている人、韓国で生きている人それぞれに物語がいつぱいあるのだらうと思うと、胸がいっぱいになる。同胞を殺し合う戦場になった国、近くて遠い朝鮮半島は、今尚統一にはほど遠い。（エイジ）池田映子



活 動 記 録

◆6月23日 図書館（図書館長、職員2名出席）と懇談。
現在ボランティア運営（ブックサポーター）で行われている市民センター図書コーナーの現状と今後について等を話し合いました。

掲 示 板

市民センター図書コーナーで 中央図書館の本の予約と受け 取りができます！

図書コーナーの検索機で読みたい本の予約をかけて、受け取りを図書コーナーにします。毎日便があるので先行の予約が入ってなければすぐに受け取れます。（パスワードが必要）特に東部の方には便利です。大いにご利用を！

図書コーナーの職員滞在時間が1時間延長されました！

12時～16時

・予約本の受け取り、リクエスト、本の予約、貸し出しの延長、図書カードの登録・更新 等は職員が滞在中に受け付けます。

友の会のお知らせ

「宮澤賢治の作品を読む会」は休会となりました。 中心的に進行していただいた加藤昌男さんのコメントです

10年間も続けた宮澤賢治の会が休会になることは誠に残念ですが、コロナの感染者が篠山にも出ていることを考慮すればいたしかたないことです。声に出して読むことが出来ない今、心の眼でゆっくりと賢治童話を読んでみるよい機会かもしれません。

賢治さんが生きていた時代には「スペイン風邪」が全世界に蔓延しました。感染者数5億人(当時の全人口の4分の1)、死者5,000万人とも云われ、日本でも39万人もの死者が出たと云います。

「スペイン風邪」は1918(大正7)年から1920(大正9)年にかけて流行しました。賢治22歳から24歳、盛岡高等農林学校を卒業し、東京へ家出、国柱会に入会する時期で最も苦しい時期に当たります。

「スペイン風邪」を題材にした作品はないのですが、『毒蛾』という短編があります。

『毒蛾』には、文部省巡回視学官である「私」が、毒蛾が発生したイーハトーブ地方を視察した時、パニックの首都マリオで威張りちらす紳士や自分の技に夢中な床屋、蛾の駆除のため消灯を警告して回る撃剣師範などの大騒ぎの様子が描かれています。

この話は実話で、1922(大正11)年、東北地方に大発生した毒蛾事件を賢治さんが実地検分し書いたと云われています。この中に出てくる床屋も現存する明治元年創業の盛岡の川村理容院がモデルと云われています。ご一読をお勧めします。

本の修理

偶数月の第2、第4金曜日10時～12時：図書館創作活動室
但し、12月は第2のみ。図書館の掲示でご確認ください。

読書会

偶数月の第3木曜日10時～12時：図書館創作活動室
但し、12月はありません。翌年の2月18日(木)です。

*** ささやま図書館友の会の活動はブログをご覧ください**

談話室

◆夜の図書館「真夏のおはなし会」が



感染予防対策をとりながら開催され、ちよっと怖いお話で二十三名の親子が涼みました。閉館後の図書館のおはなし会もいいものですね。

◆千葉治さんが六月に亡くなられました。東京都墨田区八広図書館の住民目線の実践で脚光を浴び、後に佐賀市立図書館初代館長に招聘されました。

篠山の図書館を考える会の活動期の二〇〇一年に千葉治さんの講演会を開催しました。図書館は、「本のある広場」「成長する有機体」「図書館の可能性は無限大」等の言葉は、市民がどんな図書館を目指したらいいか？の問いに大きな示唆を与えるものでした。またグリム童話「おいしいおかゆ」を佐賀弁で語られ気さくな人柄も印象に残りました。

◆「たんたん文庫」が八月に閉館しました。大型スパーの開業と同時に館内に子ども向け図書館「たんたん文庫」が開設され二十七年間地域に親しまれてきました。今号にある文庫「もりのなか」のように、利用していた子どもが成長してひとりですら立ち寄ることもあったようです。子どもたちにとっても寂しいことでしょう。また子どもたちに良い本を届けたいという熱意ある専任の職員の存在も大きかったと思います。企業運営なので閉館やむなしということでしょうか残念です。

◆改めて図書館におとも子どもも気軽に本の話しができる児童書専用のカウンターの設置が必要では？と思いました。

◆昨年に市内の配本所の実際を見て回りましたが、このような具体的な活動がもっと必要ですね(F)